

新緑の京都「比叡・雲母坂 walk」 - 雲母坂 & 八瀬ケーブル - 2017.5.2.

京都から琵琶湖への比叡越古道 雲母坂を登って 比叡山 延暦寺へ

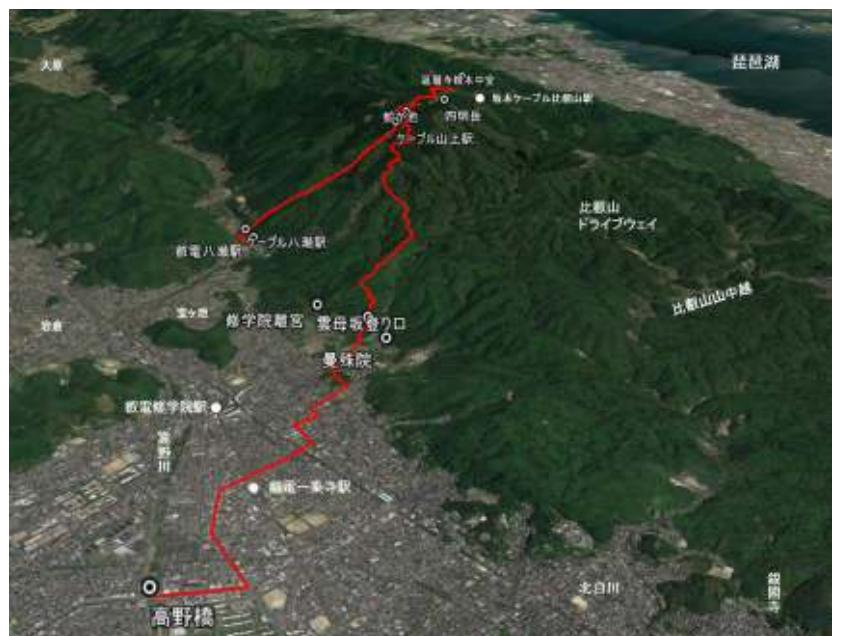


久しぶりに比叡山への古道「雲母坂」を登ってきました。

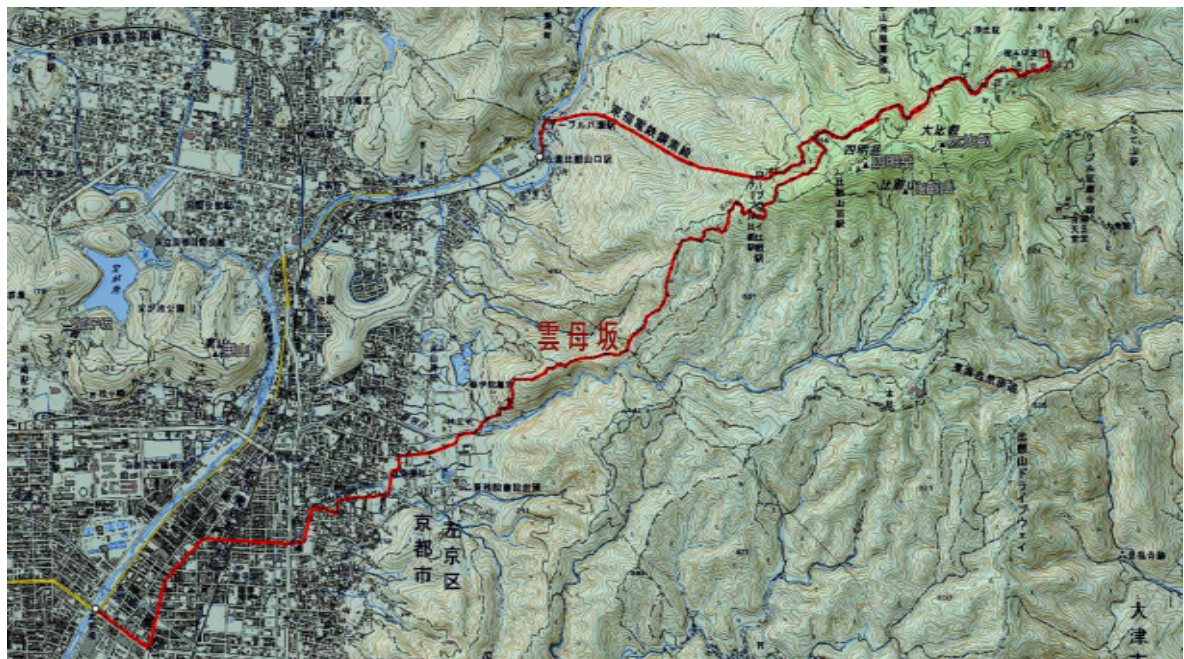
5月比叡山直下の八瀬霊園にお参りに出かけることで、話していると家内が「もう何十年乗っていない八瀬ケーブルに乗りたい」という。また、2013年2月に登った雲母坂から比叡四明ヶ岳。「阪本ケーブルも八瀬ケーブルも休止中で 雪でツルツルの雲母坂を降りたのが強烈な印象で、あの雪で埋まっていた雲母坂 雪のないときはどうなのか登ってみたい」という。京都人は八瀬ケーブルというと 蛇が池冬のスキー場・夏のお化け屋敷と誰もが知っているのですが、異口同音に「最近は出かけたことがないなあ」という。

よう おぼえているなあ・・・と驚きつつ、
「じゃあ 今回 雲母坂登って、延暦寺まで行って、帰りは八瀬ケーブルで降りよう」と

久しぶりに修学院離宮横からの古道 雲母坂を登って、比叡山へ。そして 帰りは八瀬ケーブル。新緑が心地よい比叡山。
晴天に恵まれた比叡山上延暦寺の山間には新緑に包まれて、見ごろを迎えた石楠花が至る所に咲いて、
心地よい緑の空間散歩を楽しんで帰ってきました。



1. 雲母坂から比叡山へ 高野橋から雲母坂 登り口へ



雲母坂は琵琶湖と都を最短距離で結ぶ比叡越の主要古道である。かつては延暦寺の僧兵たちがこの雲母坂を神輿を担いで 駆け下りてきたといい、学生時代から 何度も登ったよく知る道 でも 雲母坂の登りはきつかった……と記憶する。また、八瀬ケーブルはひっそりと比叡山へ登ってゆくマイナーなケーブルとっていましたが、高低差が日本一の561m。平均勾配は 1/40 と急勾配のケーブルカーだという。

スタートは高野川の北大路高野橋。ここから東北へ高野・一乗寺の集落を抜けて 比叡山の山裾修学院離宮の南縁の雲母坂登り口から雲母坂を登って、八瀬ケーブルの比叡山頂上駅でもある四明岳蛇が池に出て、比叡山延暦寺へ。帰りは、八瀬ケーブル駅から八瀬へれケーブルで降りて、叡電で帰る。



高野橋から眺める雲母坂のルート 2017.5.2. 右端の住宅のすぐ上の尾根筋が雲母坂からのルート

5.2.朝快晴 8:20 高野橋からスタート。高野川の向こうに左右バランスがよく取れた稜線がゆったりと長く引いた比叡山四明嶽が美しい姿を見せている。これから登る雲母坂のルートが真正面に見え、四明嶽の頂上の電波塔もくっきり。今日は特に琵琶湖側へ降りる予定がないので、のんびり雲母坂を登ろう。

まずは、斜めに、高野・一乗寺の街を抜け、東山山麓沿いを南北に銀閣寺から岩倉へ延びる白川通の曼殊院道に出る。曼殊院への坂道を登って、そこから北側の谷川沿いへ降りれば、修学院離宮の南側の端 雲母坂の登り口である。曼殊院道の坂道を東山の坂道を登ると京都市街地とは別世界 京都の田舎。振り向くと西山の山並み・愛宕山が市街地の向こうに見え、知らず知らずのうちに随分東山の山裾を登ってきたと。

この坂道を登り切ると、北の雲母坂へ降りる坂道の案内板、小さな森の向こうに谷川が見える。林の中を下って谷筋に降りるともうそこは緑に包まれて、東山から谷川が流れ下る静かな別世界。雲母坂の登山口。

谷川沿いの東に橋が見え、この橋を渡れば、雲母坂の登り口。 高野橋から約30分ほどで到着。



曼殊院道から東山の山麓へ 雲母坂への道をたどる 2017.5.2.



雲母坂 比叡山登り口 2017.5.2. 9:12



2. 雲母坂を登って 比叡山 四明嶽・蛇が池へ



雲母坂の登り口に入ると修学院離宮の堀に沿って、いきなりきつい登り道。ここから 四明岳の蛇が池まで 緑に包まれた林の中 樹木の間から時折覗ける市街地や周辺の山並みを除いて約1時間 視界の開けぬ尾根筋の登り道が曲がりくねりながら上へ上へと続く。

最も5月の新緑に日差しが差し込み心地よい山道。また、きつい崖路を登り切り、尾根筋に出ると前方見上げる道の際には 時折 長い年月を生き抜いてきたことを示すかのごとく こぶだらけの堂々とした巨樹が現れ迎えてくれる。

本体からは周囲に幾つもの立派な幹を思い切り広げている。

「雲母坂にこんなにいっぱい古木が今も残っていたのか」とうれしくなる。



比叡山雲母坂 2017.5.2.

花崗岩質の岩肌が露出した坂道 雲母坂 花崗岩の中に含まれる雲母が日差しにキラキラと光ったことから雲母坂と名付けられたと聞く。 また この比叡山・東山一帯には鉄鉱石があり、古代の製鉄地帯でもあり、この雲母坂は古代和鉄の道でもあった。(花崗岩には雲母とともに鉄が斑として含まれることも多く、砂鉄が取れるのですが、この雲

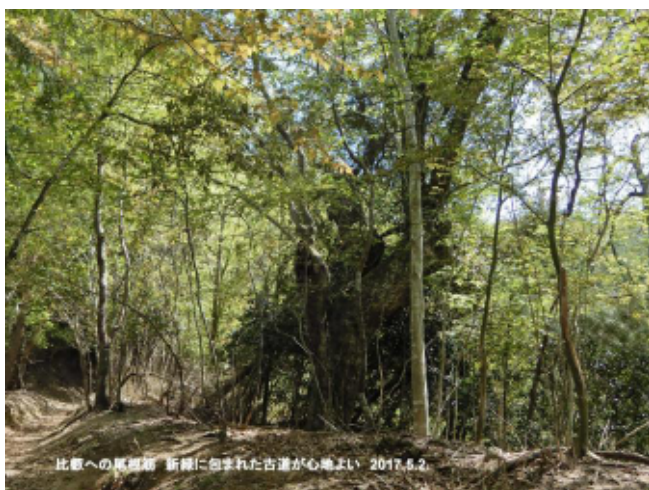
母坂周辺で砂鉄を見たことはなし。)



尾根筋のこぶを一つ越えたところで、修学院離宮の囲い網とは別れ、ちょっと楽になったさらに尾根筋に行く



京都トレイルに合流 69標識 四辻 水飲対陣跡 周辺
北から赤山禅院・南の北白川から京都トレイルの道に合流して比叡山へ
ここからまたちょっと上ると宝ヶ池方面の展望が開ける場所に

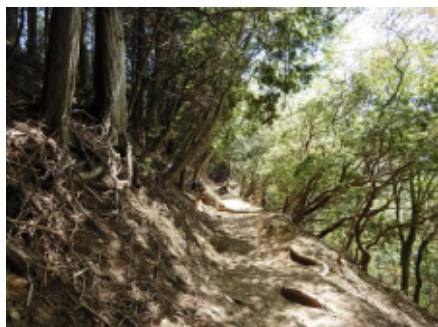


四辻を過ぎて、京都トレイル・尾根道を四明岳へ向かう古道の道際には 古木がいくつも 2017. 5.2.
相変わらず 林の中 登りが続くが 樹木の重なりが減って 空が明るくなってきて、四明岳・蛇ヶ池も近いが、
まもなく、樹間が途切れ、今度は南西側の京都市街地がふいに現れた。





比叡へと続く新緑の雲母坂がこんなに心地よいとは・・・今回初めて認識しました 2017.5.2.
家内と2月に以前歩いた時には このあたりの坂道から寒い雪道に。滑らぬよう歩いたのとは大違いです



林の樹木が一気に杉林となり、林を登りきると四明岳の頂上部 ケーブル駅横の電波塔のある展望広場に



展望広場を抜けて少し登ると 四明岳からまっすぐ下へ広がる草地の傾斜地 旧蛇が池スキー場跡到着



比叡山 蛇が池スキー場跡 2017.5.2. 11:27
 林の中を抜けると広い草付き斜面 蛇が池スキー場跡に出た。この斜面の上方にロープウェイ比叡山駅がみえる。このスキー場跡のすぐ上が比叡山四明岳山頂である。前回来た時にはこのスロープ横や下に建物があったのですが、今は何もなくなっていました。今日は延暦寺根本中堂まで歩くので、この斜面の中を北にトラバースする。ここから延暦寺へは 四明岳・大比叡の山の北側を巻いて、広い遊歩道が伸びている。

かつては大いににぎわった京都の蛇が池スキー場ですが、ハイカーが数人見えるだけで静まり返り、この上をすぐ上の四明岳頂上への短いロープウェイがすぐ下のケーブル駅から伸びている



2013.2.23. 蛇が池スキー場へ来た時の様子

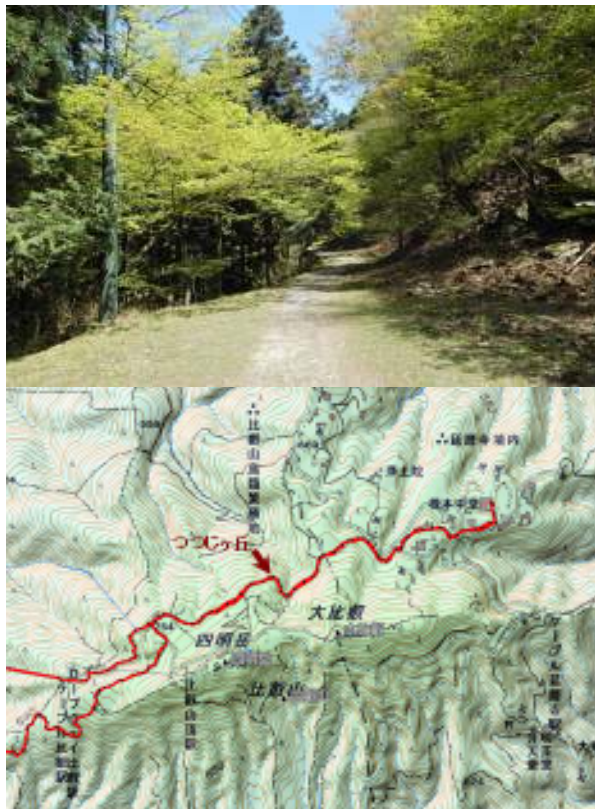
時刻は まだ 昼前の11時半 雲母坂の登り口から約2時間ほどで蛇が池到着。予定は八瀬ケーブルに乗って降りることだけ。家内は延暦寺根本中堂の中に入ったことがないので、1200年灯し続けられてきた「不滅の法灯」も見たことないという。四明岳へ行っても何もないので、昼を済ませて そのまま延暦寺まで行って、引き返して ケーブルで八瀬へ降りることに。

京都市街からもよく見える四明岳の北の肩 つつじ丘まで行って昼食に。スキー場から北へトラバースして、四明岳の山腹を北に巻いた突端の展望台である。





3. 延暦寺 Walk 延暦寺根本中堂へ 11:59



つつじヶ丘で昼食を済ませ、延暦寺根本中堂へ 11:59



つつじヶ丘から四明岳の山腹北側を巻く広い遊歩道を少し行くと比叡ドライブウェイが入る山王神社の前に比叡山ドライブウェイを下に見ながら山腹に沿って杉木立の参道を東へ行くと比叡山の泉「弁慶水」。弁慶が山王院

堂にこもって修業をしているときに、仏に供える水を1000日間にわたり汲みに通ったとの言い伝えがある場所で、もうここは延暦寺の境内である。弁慶水から緩やかな坂道を超えると杉木立の中、丘を切り開いた台地に延暦寺の諸施設の建物が建っているのが見えてきて、比叡山延暦寺の中心部に。法華総持院や阿弥陀堂への広い参道への坂道との分岐のところに大講堂への階段があり、大講堂の台地から根本中堂へ。

大講堂の台地へ登る階段のそばで、石楠花がピンクの大輪の花をつけているのが見え、ラッキーと。

階段を上がると広い台地の奥に大講堂が見え、台地の上 参道沿いにもよく手入れされた石楠花が花を咲かせていました。比叡山に石楠花？ そういえば 比叡・比良の山並みは石楠花の宝庫だと思い出しました。比叡山境内でもよく手入れして石楠花が咲いている。



大講堂へ登る階段の横や大講堂のある境内にも石楠花がピンクの花を咲かせていました 2017.5.2.



大講堂から石段を降りて、根本中堂へ 2017.5.2.
根本中堂は今回、改修工事中で、大型機械が入っていました

大講堂でお参りをした境内の奥へ進むと根本中堂へ降りる石段で、その下が根本中堂。でも、多くの大型機械が囲いがされた根本中堂にとりついているのが見える。今、ちょうど回廊などの回収工事中。中に入れてもらえないかと一瞬思いましたが、でも、多くの観光の人たちが詰めかけているのが見え、階段を降りて入口に行くと参拝OKでした。根本中堂の中に入り、ご本尊薬師如来にお参りし、世界平和・そして家族に思いをはせながら頭を下げてきました。ご本尊の前を照らし続けて1200年間一度も消えることなく輝き続けている「不滅の法灯」もじっくり見てきました。やっぱり1200年の重みはすごい。気分も新らたです。根本中堂では写真が取れないので、根本中堂正面の反対側に立つ文殊堂への急な石段を登って、じっくりと根本中堂を眺める。



石段の上から、頭を下げるのもどうかですが、今一度根本中堂に頭を下げる。
 久しぶりの根本中堂。 杉木立に囲まれ、工事が終われば また静寂になる。
 石段を登った先 石楠花の花の向こうに文殊楼がありました。



この建物は根本中堂 真正面の東側に立っていて、延暦寺の山門デモもあるという。
 楼の中にも入れてもらえるということで家内は楼にも登って、たくさん知恵をもらってきたと

文殊楼を下に降りると大黒堂前の広場で 延暦寺の南の端で、南の縁を奥に 根本中堂や琵琶湖側の阪本ケーブル
やドライブウェイからとつながっていて、さすがに数多くの人たちが見える。
これで 今日の比叡山延暦寺根本中堂散策も終わり。ここから引き返す。



文殊楼を下に降りると大黒堂前の広場 延暦寺の南の端 根本中堂の台地の下を北へ戻る 2017.5.2.
道の左手 東側杉木立の間からは ちょっぴり 琵琶湖が見える



法華総持院や阿弥陀堂への広い参道への坂道との分岐へもどって、 と来た道をぶらぶら散策しながら
つつじが丘へ戻り八瀬ケーブル駅へ。

八瀬ケーブル駅 13時30分のケーブルで 京都側の八瀬へ降りる。





いつも八瀬霊園から眺める比叡山。ここをケーブルが登ってゆくのですが、家内は八瀬ケーブルの記憶がありません。念願の八瀬ケーブルにも乗れて大満足。



京都側から比叡山walk 雲母坂 & 八瀬ケーブル 2017.5.2.

毎年5月のはじめ 比叡山の直下にある八瀬霊園にお参りに出かける。
 家内がもう何十年乗っていない八瀬ケーブルに乗りたという。
 京都人は八瀬ケーブルというと冬のスキー場・夏のお花屋敷と誰もがいうのですが、
 最近では出かけたことがないという。
 久しぶりに修学院離宮横からの古道 雲母坂を登って、比叡山へ。そして 帰りは八瀬ケーブル。
 新緑が心地よい比叡山。晴天に恵まれた比叡山上延暦寺の山間には 新緑に包まれて、見ごろを
 迎えた石楠花が至る所に咲いていました。
 心地よい緑の空間散歩を楽しんで帰ってきました。

